

小学校に入るまでにどんなことが大事？

『小学校に入学したら、ちゃんとすわってお話が聞けるだろうか。勉強についていけるのだろうか。と考えると今からちゃんとさせておかないと、うちの子はついていけない気がして心配だなあ…』と思うことはありませんか？ 特に小学校のことを考える時期になるといろいろ心配になるものです。



子どもさんが成長され、おとなになって生きていく時代は、AIなどが登場することにより、私たちが生きてきた社会とは大きく変化している時代です。私たちが経験してきたことだけではなく、さらに新しい価値を見つけていく時代となります。そこで学校教育も「教師が教える教育」→「子ども主体の学び」へと大きく変わっていったのです。そのためには、幼児教育では子ども自らが動き出し、夢中になって遊び込めることが大切になってくるのです。

好奇心はすべての学びの基礎

本来、子どもは好奇心旺盛です。赤ちゃんが五感を使ってどんどん成長していく姿は容易に思い浮かべることができると思います。幼児期の子どもたちも同様に好奇心がとても旺盛で、幼稚園で様子を見ていると自然の変化をととても不思議に感じたり、おとなや友だちのすることをよく見ていたりするものだとつくづく感じます。そんな子どもの伸びようとしている姿が、いつの間にか自信をなくしたり、臆病になったり、積極的に動くことをやめてしまったりするのはなぜでしょうか。私は邪魔をしているのはおとなの私だったと思うことがよくあります。つい、おとなの都合や価値観を押し付けていることがあるのです。そんな時、幼稚園の先生たちの子どもへの接し方を見て、はっとすることがあるのです。子どもは、好きだから、楽しいから、自らやろうとします。どの子どももっと知りたい、もっとうまくなりたいと思っています。そう思うことがたくさんある今の時期だからこそ、ゆったり、じっくり、たっぷり遊べることで自己充実感につながり、やってみようとする人間力の土台になるような気がしています。

語彙力と考える力が大事。そのためにはコミュニケーション力！

小学校にあがるまでに「文字の読み書き」ができれば大丈夫と思われる傾向があるようですが、おとなになって誰もが普通に読み書きができるようになることから考えると、学力への効果は限定的だと言われています。むしろ、「読み書き」よりも語彙力が大事だと言われています。親子や友だち、先生や親しい人など、いろんな人との会話のやり取りを通じて、楽しい経験を共有し、いろんな言葉に触れることで語彙力が増えます。語彙力が増えると授業で聞く言葉のイメージができ、生活経験と結びつくことで学習理解が深まることにつながります。「そんな言葉どこで覚えたんだろう？」と思うくらい子どもはわかっていないようでわかっているものです。語彙力が豊かになり、遊びの中で子ども自身が考えて判断する経験を増やしていくことが子どもの伸びにつながるのではないのでしょうか。